

ウルヴァリンvsジェイ
ソン

Banker.k

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

海外ホラー映画

13日の金曜日
の殺人鬼
ジェイソンと
MARVELの
人気ヒーロー
ウルヴァリン
が戦ったら
どうなるか
を書き綴った
ものです

ぜひご覧あれ！

目次

第一話 ジェイソン・ボーヒーズ

1

第一話 ジェイソン・ボーヒーズ

「クリスタルレイク」

その場所は「ジェイソンの故郷」とも呼ばれている

「クリスタルレイク」に行った者は殺される

そう「殺人鬼ジェイソン」によって・・・

第一話「ジェイソン・ボーヒーズ」

アメリカのとある学校

そこにジェイソンは通っていた

ジェイソンはいじめられていた

顔がゆがんでる

それを理由に・・・

ある日、学校の行事でキャンプをすることになった

キャンプ当日

子供たちが遊んでいるのを眺めるジエイソン

もちろん一人で

みられているのに気づいた男の子がジエイソンに近づいてきて

「お前顔変なんだよ！そんな顔でこっちみんな」

と、怒鳴りつけた

ジエイソンは注目の的だ

子供たちは一斉に近寄ってきた

「何でいるの？」

「気持ち悪い〜」

耐えきれなくなったジエイソン

その場から逃げ出すが、子供たちに追いかけて回され湖に落とされてしまう

その湖の名は

「クリスタル湖」

ジエイソンは泳げないのだ

クリスタル湖に落とされたジェイソンは助けを求めるが、子供たちは笑いながらみているだけだ。

キャンプ場の係員は知らん顔して女と性行為をしている
そして子供たちも去っていった

ジェイソンはイジメの末助けてもらえず溺れ死んだのだ

何十年か立ったある時

クリスタルレイクに数人の若者がやってきた。

どうやらキャンプをしにきたようだ。

「さあついたぞー！」

一 番 年 上 デイビス

「けっこう遠かったわね 疲れたわ」

デイビスの彼女 キヤメロン

「でもさ、いいところじゃないっすか！」

最年少 ブラッド

「そうね！湖もあるし景色もいいわ」

ブラッドの幼馴染 ケイト

「そ、そうかな？なんか嫌だよ、おれ」

オタク系　マイク

「ははっ！臆病つすね。マイクは」

ブラッドが言うどマイクは

「そ、そんなことねえよ！た、ただなんかその… 雰囲気つてやつが…」

と言つてすこし焦つていた

「まあとりあえず、今日はここにテントはつて、キャンプしましよ！」

ケイトが言う

「な、なあ本当にこんなところにすんのか？お、俺の家とかじゃだ、ダメなのか？」

マイクは震えながら言う

それを聞いたデビスが

「いい加減にしろ！そんなに嫌なら、お前なんできたんだよ！」

正論だ

「……………ごめん」

謝るマイクをみてデビスは「うむ」と頷いて

「よし、テントはるの手伝つてくれ」

そこから時はすぎ　夜

焚き火を囲んで盛り上がっている

「よし、キャンプといえど定番の恐怖の話でもしようぜ！」

「いいつすね！誰からします？」

「そういえば、マイク」

「え？な、なに！」

「あんたきた時からビクビクしてるわよねえ。何かあるなら、今言いなさい」

「え？あ、ああ 言った方がいいのかな？」

「いいなさいよ」

「わ、わかりました。僕は本当はこの場所に来たくなかったんです。」

「なんでつすか？」

「じつは昔、この場所で男の子が殺されてるんだよ。もし、幽霊とかでたら、嫌だから」

「・・・」

「はっはっは、マイクまさかそんなことあるわけないだろう！」

「そ、そうだよね！あるはずないよね」

マイクがそう言った時ケイトが

「あの、あたしちよつとトイレ行きたいんだけど、どこですればいいかな？」

「そこらへんでしてこいよ！ほい紙」

「ありがとう！」

ケイトが用をたしに行つてから5分くらいたったが戻つてこなかった
不審に思つたブラッドが

「俺、ちよつと探してくるっす」

といつてその場を去つた

しばらくしてからブラッドが真つ青な顔をして大慌てで戻つてきた。

「どうしたのよ？」

キヤメロンが聞くと

「ケ、ケイトが向こうでケイトが！」

「とにかくケイトのところに行こう」

ケイトのところに向かう

しばらくすると木が2本ならんでいた

その木の間に人の影のようなものがぼんやりと、近づいてみると斧で顔面を刺された
死体が……

ケイトだった……

死体をみた瞬間

みんなの顔が青ざめる

警察を呼ぼうにも携帯は圏外

ブラッドはパニック状態

キヤメロンは瞳孔が開いたまま動かない

デイビスは落ち着いている

マイクはとにかく震えている

さあどうする!!